

2015年度春学期 外国語honors認定書授与式

大学広報課

6月4日、クラーク記念館（クラーク・チャペル）にて、2015年度春学期の外国語honors認定書授与式を挙行政した。外国語honors制度（外国語科目成績優秀者表彰制度）は、高度な外国語運用能力と国際的な視野と見識を備えた人材の育成を目標に、外国語について優秀な成績を修めた学生を表彰する制度で、2006年度春学期から導入している。

授与式では、神谷遊教務部長の司会のもと、村田晃嗣学長が祝辞を述べ、外国語科目成績優秀者一人ひとりに認定書と記念品を手渡した。

認定を受けたのは、神学部1人、文学部19人、社会学部2人、法学部3人、経済学部1人、商学部4人、生命医科学部1人、グローバル・コミュニケーション学部4人、グローバル地域文化学部1人の計36人で、言語の内訳は、英語21人、ドイツ語5人、中国語7人、ハンガル3人であった。



東アジアの「平和の架け橋」
となるために

～第12回東アジア青少年歴史体験キャンプ参加報告～

しのはらたかあき
中学校・高等学校教諭 篠原貴明

アジアの時代となる21世紀に東アジア青少年歴史体験キャンプが開催され、アジアの若者が京都に集まり、行動を共にした。第12回である今回は、本校から2名の生徒が参加した。日本だけでなくアジア各国で反日・反中・反韓をおおる政治家が支持を集め、お互いがお互いをよく知らないまま悪いイメージだけが先行してしまっている。そのような悲しい悪循環をこのキャンプに参加した若者たちはこの5日間で見事に断ち切った。キャンプの主要プログラムはフィールドワーク、講演、討論、交流行事である。日本の加害の側面に関する場所を中国や韓国の若者と共に訪れたり、同じ講演を聴いたり、討論することは非常に意義深いものであった。また交流行事には、日中韓3ヶ国の生徒たちが国ごとに自分たちの国の文化や流行を発表し合う「オープンカフェ」がある。討論のような「お堅い」交流ではなく、お菓子を食べたり

写真を撮りあったりといったフランクな交流ができることから思い出深い取り組みであった。このキャンプに参加した女子生徒は以下のような感想を述べている。「地理上の国と国との距離はありますが、実際その国の人と会えば、心の距離が縮まります。お互いに本音で話し合うことが相手を理解するのに最も良い方法であり、お互いを理解することと認め合うことが世界平和へとつながるということが胸の奥深くに残りました。」キャンプでの学びの成果がここに集約されている。現在の日本で、東アジアの若者たちが集い、日本国憲法にある「平和的生存権」について、寝食をともにしながら考え、議論した。彼ら彼女らがいつか本場に「平和の架け橋」となることを夢見て、私を含む多くのスタッフは今後もこのキャンプに関わり続けたいと思っている。本稿をお読みいただき、共感していただけた方の中にお手伝いいた



ける方が出てくれば、筆者としてはこれ以上の喜びはない。

同志社女子大学の集い2015
(東京・名古屋会場)

女子大学

6月13日に東京・虎ノ門ヒルズフォーラム、14日に名古屋ヒルトンホテルにて、「同志社女子大学の集い」を開催しました。この行事は、卒業生および在学生保護者を対象に、大学の方針や取り組みについてご理解いただくとともに、参加者相互の交流の場となることを目的として、毎年全国5か所で開催しています。

第一部は在学生保護者対象の就職説明会で、本学の就職・進路状況やサポート体制などについてキャリアサポートセンターから説明を行いました。第二部から卒業生も参加していただき、加賀裕郎学長、坂部恵美同志社女子大学同窓会《Yumeの会》会長の挨拶に続いて、大学の近況を報告しました。講演会では、若本夏美表象文化学部英語英文学科教授が「あなたの英語の教え方・学習方法は適切ですか…SLA（第二言語習得）研究からの知見」と題して講演を行いました。クイズ方式を取り入れ

た来場者参加型の講演は、アクティヴ・ラーニングを体験していただく機会にもなり、参加者からは「再び英語を学んでみようという意欲がわいてきた」「こんな授業なら受けてみたい」といった感想が寄せられました。

第三部の懇親ティーパーティーでは、崎井一三同志社女子大学栄光会長による挨拶の後、参加者同士で懇談していただき、卒業生が再会を懐かしめる姿や在学生保護者同士で情報交換をされる姿が見られました。本学のグッズが当たる福引大会や、参加者の方からのスピーチもあり、最後に全員で同志社女子大学歌とカレッジソングを斉唱し、盛況のうちに終了しました。



大学歌、カレッジソングを参加者一同で斉唱



若本夏美教授による講演会

「英語スピーチ・ プレゼンテーション発表会」

女子中学・高等学校 総務部副主任国際交流担当 **林 昌美**

2015年1月22日LHRの時に、栄光館チャペルにて英語スピーチ・プレゼンテーション発表会を行いました。近年同志社英語大会やプレゼンテーション大会が始まり、同志社内中高で盛りあがりを見せています。グローバル時代とも呼ばれる現代において、英語で意見を述べる力が重要視されてきています。本校でも高校生を対象に、校内での英語発表会を行いました。発表者は夏期研修 Smith College Program や Punahou School SGLI Program 参加者、各英語大会参加者でした。内容は「Mountain」[City Urban Planning] 「Good Leader」 「Maternity Harassment」 など、興味深いものばかりで、生徒たちも英語の発表に真剣に耳を傾けていました。発表者は緊張しながらも、自信を持って発表することができ、貴重な経験をしました。また同時に、この発表を見て刺激を受け、興味を持ち始めた生徒も多



▲SGLIプログラム参加者によるプレゼンテーション



▲高校3年生によるスピーチ「Good Leader」



▲スピーチ、プレゼンテーション発表者



▲高校1年生によるプレゼンテーション「City Urban Planning」

くおり、今後の成長が楽しみです。今年度は中学にもこの取り組みを広げ、英語でのスピーチやプレゼンテーションに挑戦する生徒がますます増えることを期待しています。

す。女子中高の英語教育、国際教育の発展を願い、より一層魅力のある行事にしていきたいと考えています。

旅鉄部「全国高等学校鉄道模型コンテスト」出場について

香里中学校・高等学校教諭 **八井健太**



▲2014年度出展作品「ふしみ、いなりと、夏祭り。」(京阪電車伏見稲荷駅がモデル)

皆さんは、表題にある「全国大会」が毎年行われ、熱い戦いが繰り広げられているのをご存知でしょうか。全国の高校の鉄道、地理などを研究するクラブや、電気、技術工学などを研究するクラブによる、鉄道模型を通して「ものづくり」をテーマにした大会で、毎年夏休みに東京ビッグサイトで開催されています。

活動の主であり、鉄道ファンの部員たちがほとんどのクラブです。旅鉄部では以前から本校の文化祭において、年間の研究発表のパネル展示の他に簡単な鉄道模型レイアウトを設置し、来場者に運転を楽しんでもらう企画を行ってきました。部員たちから本格的なジオラマの製作に取り組みたいという声が上がったため2012年夏、より多くの参加校を求めていた大会の運営からお誘いを頂き、「モジュールレイアウト部門」への出場を即決しました。



▲細かな作業の連続で作上げた駅の風景



▲本校文化祭にて、歴代作品を連結して運転

様々な作品が展示されるこの大会において、旅鉄部はリアリティを追求し、モデルとなる場所でも度々実地調査をした上でレイアウト製作に取り組んでいます。現在まで上位入賞は果たせていませんが、コンテスト当日は多くの来場者からお褒めの言葉を頂いています。また、コンテスト終了後は本校の文化祭にて歴代レイアウト作品を連結し、そこへ車両を走行させる企画も行っています。これからもより良い作品を追求し、挑戦を続けていきたいと思っています。

同志社国際学院は、同志社の新たな一貫教育への歩みとして、初等教育段階から国際的観点にたった同志社教育を展開し、建学精神の一つである「国際主義」の一層の充実と水準の向上を図り、その教育効果を世界に向けて発信することを目指して、2011年に京都府木津川市に開校しました。2つの学校が併設しており、2011年4月に開校した初等部は1から6年生が在籍する、所謂一条校で、もう一方の国際部は同年9月に開校した1から12年生が在籍するインターナショナルスクールです。今回は、国際部 (DISK: Doshisha International School, Kyoto) の最新状況について、お知らせしたいと思います。

現在、DISKに在籍する児童・生徒の約4割が外国籍と二重国籍、残りの児童・生徒が日本国籍ですが、日本国籍の児童・生徒のおよそ半数は帰国生です。世界的に増加傾向にあるインターナショナル

スクールでは、外国籍より現地国籍の児童・生徒の比率が上昇しつつあります。これは、各国におけるグローバル教育への関心の高まりを反映していると思われる、DISKにおいても同様の傾向が見られます。DISKでは、言語の学習として日本語を履修する以外は、全ての授業が英語で行われており、新島襄が同志社英学校を創設した当初の志である「英語で学ぶ」を実践しています。

DISKでは、米国西部地域私立学校大学協会 (WASC: Western Association of Schools and Colleges) からの認証取得を目指してまいりました。3年超に及ぶ準備期間を経て、本年4月にWASCによる訪問調査を受けた結果、7月には認証取得の通知を受け取りました。WASCからの認証を取得したことにより、DISKの卒業生全員が、日本を含む各国の大学への受験資格を得ることになりました。これは、DISK卒業生の進学先が、

国内外で大きく広がったことを意味しています。

加えて、同志社大学の全ての学部において、DISKの卒業生が指定校推薦入学を目指す仕組みを作って頂きました。これによって、これまでILLA (Institute of Liberal Arts) に限られていたDISK卒業生の同志社大学への進路が、2017年4月から全学部に拡大することになります。同志社大学附属の学校として、DISKも同志社大学とのより密接な高大接続を図ることにより、国際的観点にたった一貫教育の理念を、同志社全体で一層追求する体制が整うこととなります。

DISKは、開校後間もなくして国際バカロレア (IB) の後期中等教育課程プログラム (DIP) の認定を受けたのに続き、初等教育課程プログラム (PIP) 認定に関しても、2014年初めに取得しました。今後は、前期中等教育課程プログラム (MYP) の認定取

得も目指しています。IBが掲げるミッションは、同志社の教育理念と同じくしており、IBが長期的な展望としている「学習者像 (Learner Profile)」は、同志社が育成を目指す人物像と相互に重なり合う部分が多く、更に新島襄の生き様が全ての「学習者像」と合致していることは、大変興味深い点です。加えて、IBの教育手法は、「探究型」「学習者がプロアクティブに参加する」ものとして、国際学院が理想とするところです。IB DPLコースでは、12年生が卒業を目前とする5月に、最終試験が行われます。この最終試験において、ある一定基準を満たしたDPL資格取得者は、文部科学省を始めとする世界各国の政府機関・大学が高校卒業同等、あるいはそれ以上と認める大学受験資格を得ます。DPL資格取得者は、従来から欧米の主要大学が高く評価していますが、日本の主要大学も評価し始めており、IB DPL入試制



皆で協力して、象の体をきれいにします。



象の食べ物も、皆で協力して運びます。

度の整備が急速に進んでいます。DPLの資格取得により、DISK卒業生の進学先が、国内外で大きく広がります。DISKでは、全ての卒業生が、DPL資格取得者となることを目指しています。

ある象の保護地域で象の飼育を体験し、パンコクでタイ王国の歴史や同国における象の重要性等を学びました。生徒たちは家族と離れての海外渡航を通じて、自らの責任ある行動、生徒間のチームワークのみならず、グローバルな環境問題への取り組み、ボランティア活動の意義を学びました。